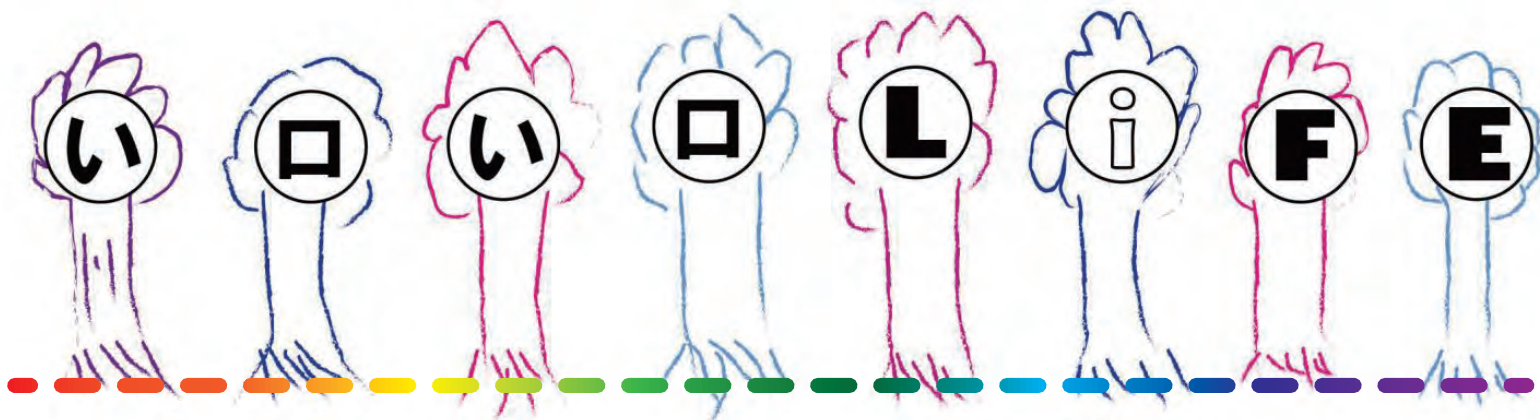


志木市精神保健福祉をすすめる会



第2号 2017年11月発行

ごあいさつ

時が過ぎるのは早いもので、第1号ニュースレター発行から3ヶ月が経ちました。一段と冷える季節がやってきましたので、くれぐれもご自愛ください。

さて、今回のニュースレターは2017年5月、法人定期総会後に実施した記念講演会のまとめと家族交流会の様子、そして利用者ご家族からのメッセージをご紹介します。

特集～総会記念講演から～

第1部は公益社団法人やどかりの里常務理事の増田一世氏にご登壇いただき、これからの私たちのくらしは？「我が事・丸ごと」地域共生社会をどう考えるのかというテーマで講演していただきました。「社会保障」「障害者権利条約」「共生サービスをどう考えるか」「高齢障害者の問題」「人材不足の問題」について言及されてました。

第2部はパネルディスカッションを行い、パネラーとして認定特定非営利活動法人耀の会代表理事の関正視氏、社会福法人にいざの星丘匡史氏にご登壇いただきました。各々のフィールドで実践されていることや精神科病院・クリニックの現状のご報告、「我が事・丸ごと」地域共生社会についてのご意見など幅広い内容でお話していただきました。感想含め講師、パネラーの方々からコメントを頂きましたのでご紹介させていただきます。

第1部 「我が事・丸ごと」地域共生社会をどう考えるのか」ダイジェスト

200万円以下の所得の割合が圧倒的に多い中、4、50代でも親御さんと暮らしている方が多く、「他の者との平等」は実現されていない。その課題に立ち向かっていくためには障害者権利条約を自分たちのものとしていく必要がある。

これからの障害者福祉

来年は生活困窮者自立支援制度の見直しがあり、報酬改定も重なる。成果主義、生産性がもっと問われるようになるのかもしれない。

我が事とは

- ・住民主体による地域課題の解決力強化
- ・体制づくり、市町村による包括的な相談支援体制の整備
- ・地域づくりの総合化・包括化
- ・地域福祉計画の充実
- ・各種計画の総合化・包括化

地域包括ケアシステムの深化・推進

自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化等の取組の推進（介護保険法）。保険者が介護認定率を下げるとインセンティブを付与するというもの。年齢と共に機能が衰えていくのは人間の性だが、それに逆行するようなインセンティブを与えるということは一人ひとり大切にしていると言えるのだろうか。財政的インセンティブの付与は成功報酬制度。これは社会保障の仕組みに果たしてなじむのか。社会保障が目指しているのは、人々の幸せだったり、健康だったり、その人らしい暮らしである。

福祉分野の人材不足はどこから来ているのか？

障害分野の給料の安さが一番の原因。障害者の社会における位置づけを表している。障害者にはお金をかけないでいいという国の思想。それを跳ね返さないといけない。それにはこの法律改正じゃないというのが私の問題提起。憲法と権利条約の話から介護・高齢分野の話でわかりづらいと思うが、社会保障の仕組みが変わろうとしている。是非関心を以っていただきたい。



丸ごととは

- ・ 公的福祉サービスの総合化、包括化
- ・ 専門人材のキャリアパスの複線化
- 医療・福祉資格に共通基礎課程をつくる

地域共生社会とは

地域の問題は地域で解決するように自覚しましょうというもの。私は60年同じ地域で暮らしている。4軒くらいはなじみがある。ところが隣の隣は知らない。町内会に入ること・ゴミ当番になることを拒否する家庭もあるので現実的には難しさがある。

増田一世氏プロフィール

やどかりの里 常務理事
日本障害者協議会 常務理事
埼玉県セルプセンター協議会 会長

精神医学ソーシャルワーカーを目指し、やどかりの里の研究生となり、精神障害者とのグループ活動に従事する。精神障害者への援助活動の傍ら、出版事業を行う。精神障害者とともに働きながら、地域づくり、人づくりに注目した事業展開を目指している。

第2部 パネラーの方々のコメント

認定特定非営利活動法人 耀の会 代表理事 関 正視

記念講演会にお招きいただき、当法人の取り組みならびに、課題についてご説明する機会をいただき、感謝します。団体のミッションである「精神障害者、ならびにその家族が、安心して暮らせる社会を目指す」を達成するための、課題の抽出の実例をお話しました。

障害者の家族が、抱えている問題点を、紙に書き出しそれを「重要度」「緊急性」「実現度」に分けて、その重み付けを行う方法です。興味を持って聴講いただき感謝します。是非一度お試しになってはいかがでしょうか。



社会福祉法人にいざ にいざ生活支援センター 星丘 匡史

にいざ生活支援センターで、関わっている利用者の方々が、利用している新座市近辺のクリニックや、病院など精神科医療について、話しました。クリニックの運営母体はどんな病院か。病院系列ではないクリニックで、具合悪くなると、どこの病院に入院になることが多いか。病院のワーカーの動きや、医者の対応はどうかなど。このような情報は多くの人と、共有していきたいと思います。会場からの、反応も良かったので機会があれば、また話したいと思います。



家族交流会から



当法人では、2ヶ月毎に事業所利用者ご家族をお招きして家族交流会を行っています。日ごろなかなか見ることのできない事業所の様子、雰囲気などを画像で紹介したり、グループに分かれてご家族同士で交流していただくといった内容になっています。

語り合う！ 支え合う！ 学び合う！ 家族交流会

担当理事 赤松 祐造

家族交流会には、統合失調症、うつ病、躁うつ病などの精神障害者を家族にもつ人たちが集っています。ここでは一般の人には話せないことも、遠慮なく、お互いに不安、悩みを語り合えます。不思議と悩みや問題を語ると心の重荷が取れ、気持ちが軽く、楽になります。また、お互いに支えあうと、なにか不思議と元気が出ます。そして、自分達の活路が見えてきます。家族間の問題についても NPO の職員のお話を聞きますと、知見が高まり、自分の偏った考えに気付き家族への対応が変わります。これからは時には専門家を呼んで精神障害者への対応、福祉制度などの勉強会を行い、学びあう機会を持ちたいと思っています。



ご家族からのメッセージ

〇さん ご家族から

弟は昨年11月、脳梗塞を発症、4ヶ月の入院をしておりました。なんとか将来自立してくれることを目指していた家族にとっては、精神疾患に加えて脳梗塞の後遺症と向き合わなければならず、退院後に大きな不安を抱えることになりました。しかし、今年1月に退院した弟は、すぐに公的サポートを受け、同時に志木事業所に通い始めたのです。

すると・・・、精神疾患においては、ひと月もすると目を見張るほどの大きな変化が起きました。来訪者に不安があったのが、受け入れられるようになり、日々の出来事を話すようになり、不安を爆発させていたが、なくなり・・・など、まだまだあります。今では、「こんなに多くの人が僕のためにやってくれて、本当に良いのかな」「感謝しかない」という言葉があふれています。志木事業所で多くの方と「コミュニケーション」が取れたことが大きく影響したのではないのでしょうか。家族はついつい、もっとできるはずと期待をしてしまっていますが、ゆっくりと見守ろうかと思う日々です。

Ⅰさん ご家族から

子供から「就職する」「研修に行くから」との話。突然だったので正直驚きの一言でした。「いずれは」とは思っていたし、私の願いでもあります。でも、突然の事だったからか良くない事ばかり考えてしまいます。

医師から統合失調症と言われたのが高校生のときでした。発症して数年は本当にどう対処していいのか手さぐり状態、突然、家を飛び出し数分で戻るが、数分後にはまた出て行く事を、一日何回と繰り返す日々、盗聴されていると言い出し専門家に来てもらう、芸能人が迎えに来てくれるからと服をバッグに詰め、夜に家を出て、駅周辺に朝方まで立って待っていることしばしば。「死ね!」と言っているとの幻聴に苦しみ死のうとしたことも。まだまだ色々な事がありましたがよく乗り越えてくれたと思います。志木事業所にお世話になるようになり、通うことで少しずつ少しずつ落ち着いた生活を送れるようになってきました。

事業所のスタッフの方々の見守りの中での仕事は安心して送り出していましたが「就職」となれば別です。病名は知っていたとしても接し方、応対の仕方で振り出しに戻ってしまうかもと、マイナスな事ばかり考えてしまいます。これまで子供が辛い日々を送りやっと乗り越えてきただけに、親としては慎重にならざるを得ません。

でも一歩前進しようとしている子供の気持ちも考えたら本当に迷うところではありますが、これからも家族で見守っていきたいと思います。志木事業所のスタッフの皆様には本当に感謝の日々です、ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。



いっぴいLIFE第3号は1月ごろ発行予定です、お楽しみに！

発行人 特定非営利活動法人 志木市精神保健福祉をすすめる会

TEL 048-476-8064 (志木事業所) FAX 048-476-8079

メールアドレス info@susumerukai.net ホームページURL <http://www.susumerukai.net/>